

夢をえがこう 自分をえがこう 嶮山あったか ハーモニー

横浜市立嶮山小学校

TEL: 902-7161,7162

FAX: 904-4254

平成 30 年 1 月 31 日

嶮山小通信

2 月号

ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kenzan/>

校長 山口 昭代

「雪の時間」

校長 山口 昭代

つい先日の 1 月 22 日には、神奈川県内全域に大雪警報が出されるほどの雪が降りました。翌日の「神奈川新聞」の一面には次のような記事がありました。

「大雪 帰宅の足直撃」 「横浜で16センチ 県内各地混乱」

「男女40人以上が歩行中に転倒するなどして負傷した。」

「県などは早めの帰宅や外出の抑制を呼び掛けたが、夕方を中心に交通機関が乱れ、各地に影響と混乱が広がった。」

「23日にかけて路面の凍結などに注意するよう呼びかけた」

首都圏への降雪の影響は、本当に大きなものだ実感します。一瞬で日常の営みが寸断される事態とも言えるでしょう。仕事帰りの保護者のみなさまや地域のみなさまも、けがなく、無事に、この雪の数日間を過ごされましたことを、願っておりました。

嶮山小学校の教職員も、この日朝から車通勤を控え、公共交通手段で出勤したり、バイクや自転車を置いて歩いて帰宅したり、できる限り夜遅くなる前にあざみ野駅までたどり着くことを目標に、それぞれが工夫しました。焦って急いで転倒や事故を招くことや、何時間も駅で動けずに電車を待ち続けることがないように、声を掛け合って帰途につきました。

そして、翌朝には、登校する子どもたちに雪道上の危険がないように足元確保の雪かきをしたり、地域各所に出て交通安全指導を行ったりするため、7時過ぎには、ほとんどの職員が勢ぞろいしました。スコップ片手に、スノーブーツ姿、頼もしいでたちです。あっという間に、作業が進み、雪を割ってアスファルトが顔を出し、歩くのにちょうどよい細道が次々と作られていきます。私は、たとえば、北門と正門の二つの門を行ったり来たりしながら、子どもたちの登校を迎えましたが、とにかくどの顔も嬉しそうでした。この雪に心が占められて、わくわくしながらの「おはようございます!!!」の挨拶は、一段と明るく朗らかなものになるでしょう。

一方、雪国の平原のような校庭の雪景色は、ただただ息をのむように美しいものでした。どこまでも、なめらかで純白で柔和。お日さまの陽を浴びて、キラキラと光り続けています。この雪と雪景色とのふれ合いは「今」しかないと感じました。中休みの10時まで待っていたら、様相は変化し、消失してしまいます。先生方と話し合って、朝の1時間目を「雪の時間」と決めました。

子どもたちは雪の校庭に駆け下りてきたり、嶮山公園まで足を延ばしたりして、思い思いの表現で、走ったり跳んだり、滑ったり寝転がったり、つかんだ雪を投げ上げたり、雪の玉をつくって先生を追いかけたり、雪だるまづくりに興じたり、正に躍動する姿そのものがありました。そして全員が笑顔です。子どもたちが遊んでいる間、放送室からは「♪アナと雪の女王」のBGMが流れ続けました。雪は、こんなにも、素朴でシンプルで、でも、とびきりしあわせな時間を、子どもたちに、そして私たち学校で働く大人たちにもプレゼントしてくれたのだと感じました。巡りくる季節がもたらす気まぐれのような天候の一コマだけけれど、それを、子どもたちが<小学校生活の忘れられない思い出のワンシーン>として心に描いてくれたら、なんと素敵なことでしょう。

保護者のみなさま、地域のみなさま、関係機関のみなさま、今月も本校教育活動へのご理解、ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。